100年前、権力に抗して声をあげた少女（おとめ）がいた

me too

厳しい弾圧にも自分の思いをつらぬいた千代子の生き方

ヒューマンドラマ
こころざしつつたふれし少女よ
劇映画 伊藤千代子の生涯（仮）

「チーム千代子」――独立プロの総力

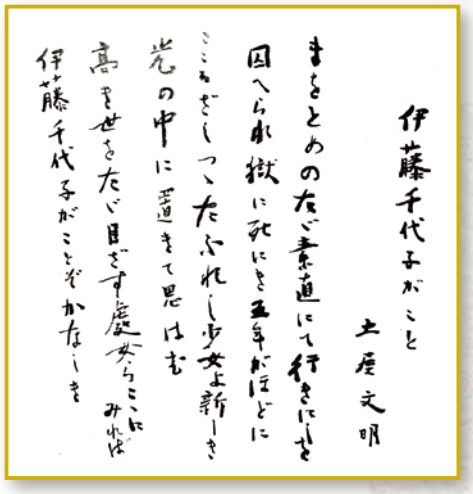
総監督・プロデューサー●桂壮三郎　原案●「時代の証言者 伊藤千代子」藤田廣登（学習の友社・刊）
脚本・監督●宮負秀夫　撮影監督●飯岡聖英　音楽●山谷知明
企画・製作●劇映画「伊藤千代子の生涯」ゴーゴービジュアル企画
●賛同団体●
治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟／日本国民救援会／日本婦人団体連合会／婦人民主クラブ／
新日本歌人協会／全日本年金者組合／全日本年金者組合東京都本部／
全日本民主医療機関連合会／東京山宣会　（2020年2月現在）

2021年春 クランクイン！豪華キャスト 出演予定！

劇映画「伊藤千代子の生涯（仮）」に期待します

作家・九条の会呼びかけ人
澤地久枝さん
私たちは忘れない、千代子のこころざしを。悪政覆す盾に

無言館館主・作家
窪島誠一郎さん
不条理の時代にこそ、伊藤千代子のこころざしを



伊藤千代子がこと
土屋文明

まをとめの
たゞ素直にて
行きにしを
因へられ獄に死にき
五年がほどに
こころざしつつ
たふれし少女よ
新しき
光の中に
逝きて思はむ
高き世を
たゞ目ざす
歩みらに
みれば
伊藤千代子が
ことぞ
かなしき

教え子の獄死を悼んで ―土屋文明詠
1935年（昭和10年）

「大きな、長い目で見た時、私自身の持っている才能を一番よく発揮し得た時、お祖父様方のご恩に最もよく報いられるのだと思っています。何か新しい、ほんとに世の中のためになる仕事を始めた人々は、だれでも初めは社会からつまはじきされたものです。私は強い確信を以て、正しい勉強をし、やがて皆様へのご恩返しになるようなものになる準備をしていることをあなたに信じていただきたいのです」（東京女子大卒業を断念した時の従姉妹への手紙より）

絶対的天皇制政治のもと、声をあげ、立ち上がった伊藤千代子の生き方が今、Me too運動の中でも注目されています。

なぜ、諏訪に生まれたもの静かな文学少女が、厳しい弾圧に屈せず24歳で倒れるまで闘い続けたのか。100年経った今……

Message
今の世を憂うすべての人へ

伊藤千代子の生涯に「新しい光」をあて待望の劇映画化！いよいよ製作始動！

ヒューマンドラマ

こころざしつつたふれし少女よ

劇映画 伊藤千代子の生涯（仮）

〈ものがたり〉

100年前、権力に抗した一人の少女に、今私たちは何を感じるのか

「朝から晩まで働いても、満足にご飯が食べられない貧しい人たち、一方では贅沢をしている人たち……。この不公平な社会をなんとかよい社会にしたい……」

時は明治・大正末期から昭和初期の激動の時代。天皇の絶対的専制政治のもと、国民は「天皇の臣民」とされ、貧困と無権利状態におかれていました。

千代子が東京女子大で学ぶ頃、稀代の悪法「治安維持法」が公布され思想言論弾圧がますます激しくなります。

千代子は、故郷の長野で製糸工場の大争議を通じ、労農党の浅野晃と知り合い、結婚。大争議を浅野とともに支援します。

そして日本共産党と共同戦線を組んだ労農党が初の総選挙で大躍進。その躍進を恐れた支配層は28年3月15日の大弾圧を加えます。千代子は検挙され激しい拷問を受け刑務所へ送られますが屈せず、獄中のリーダーとして侵略戦争に反対し、主権在民、ジェンダー平等の社会を目指して志を貫きました。

しかし、同志であり最愛の夫である浅野晃の変節と裏切りを知り、非人間的な刑務所での扱いもあって千代子の身体と精神は徐々に蝕われていくのでした……。

1 弁当分け合う 心優しい千代子さん……

諏訪高女で土屋文明の薫陶受けて育った伊藤千代子は、卒業後の代用教員時代、凶作や繭・生糸の暴落で弁当を持参出来ない児童を励まし、教室に残って弁当を分け合って食べていました。職員室にほとんど戻りませんでした。

2 『婦人論』読んで ジェンダー平等へのめざめ

「女が勉強して何にならずか」という風潮の中で、向学心に燃えた千代子は、諏訪高等女学校を目指します。仙台・尚絅女学校では自由・平等の新しい社会思潮にふれ、そして臨んだ東京女子大でベーベルの『婦人論』に出会い、「これだ」と感動した千代子は、郷里の友に書き送る……（1925年12月発信の手紙から）。

「女の人が覚める時、男子の催眠術から、
そして自己の自己に対する催眠術から覚める時、
どんなにすばらしい世の中が展かれて来るでしょう」

3 小林多喜二と伊藤千代子 ── 時代が結んだ青春

1928（昭和3）年、日本で初めて25歳以上の男性のみの普通選挙が行われました。このとき、伊藤千代子は、北海道から出馬する労農党の候補者山本懸蔵の選挙出立資金を用立て、活動に参加していきました。

小樽では、待ちに待った小林多喜二らが「われらの山懸」を迎えてたたかいの火ぶたが切られました。選挙応援の機会が巡ってきた多喜二は羊蹄山の麓へと吹雪をついて突き進みました…。「俺たちの運動は何代がかりだなぁ」…（小林多喜二『東倶知安行』より）。

同時代に、小林多喜二と伊藤千代子は目に見えない糸で結ばれながら、社会変革への息吹を胸一杯に吸うのでした。

小林多喜二
（1903～1933年）

伊藤千代子
（1905～1929年）

製作支援 2つのお願い
製作資金づくりを みなさんのご協力で進めます

1 **協賛募金** → 個人募金をお受けします。金額を問いません。

地域・職域で10万円に達したら

2 **上映債権** → 上映債権を提供します。映画完成後、地域・職域で上映会を計画しましょう。

「協賛募金」と「上映債権」のお申し込み先

「映画製作を支援する会（略称・サポーターの会）」
〒113-0034 東京都文京区湯島 2-4-4
全労連会館 5F　学習の友社 気付
担当：藤田廣登　090-4527-1129
mail：fujitahiro@outlook.com

FAX 04-7174-2028

送金先（郵便振替口座）00190-7-409200
加入者名：伊藤千代子の会

●下記申込者には郵便振替用紙を送付します。

郵送の際の切り取り線

協賛募金・上映債権 申込書

郵便・FAXでお申し込みください。

お名前&団体名 団体様の場合は担当者様のお名前もお書き下さい。	担当者	□ 個人協賛募金　円 拠出 □ 製作資金　1口 10万円 拠出
ご住所	〒	
電話・FAX	TEL　　Eメール	

取扱団体